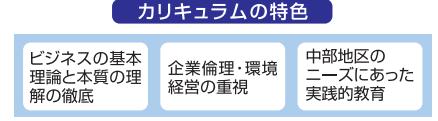
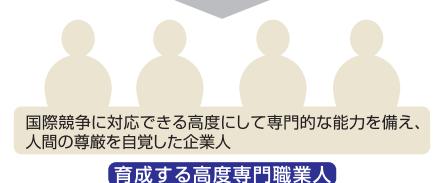
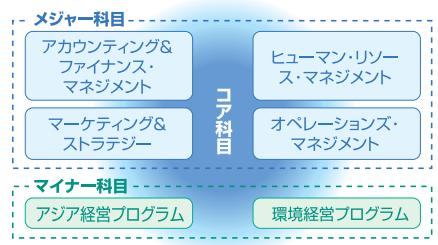


南山大学は、専門職大学院（ビジネス・スクール）として、ビジネス研究科ビジネス専攻「南山ビジネス・スクール」（定員50名）の2006年4月開設を目指して、現在準備を進めている。「南山ビジネス・スクール」の具体的な内容について、ビジネス研究科長（予定）の斎藤孝一教授およびビジネス専攻主任（予定）の湯本祐司教授に話を伺った。

カリキュラムおよび教育内容の特長



カリキュラムの構成



協同することによって各専攻における教育効果を高めることができる。ひいてはビジネス研究科そのものの活性化につながる。③年齢・動機・将来の目標が異なる学生が相互に刺激し合うことにより、個々の学生の勉学意欲をさらに高め、新たな自己実現の可能性を見い出させる。

④実績のある既存研究科内にビジネス専攻を設置することにより、従来に増して海外からの留学生の信頼を獲得することができる。

Q:「南山ビジネス・スクール」の特色を教えてください。

A:「南山ビジネス・スクール」では、国際競争に対応できる高度にして専門的な経営能力を形成し、本学の建学の理念であるキリスト教世界観に立ち、人間の尊厳を自覚した企業人として文化の進展に寄与する、「南山ビジネス・スクール」独自の高度専門職業人の養成を目的とします。この

ような人材を育成するため、①ビジネスの基本理論と本質的理解の徹底、②企業倫理・環境経営の重視、③中部地区のニーズにあった実践的教育、④社会人の再教育を教育課程の大きな特色とします。

Q:カリキュラムの特色を教えてください。

A:ビジネスの基本理論と本質的理解に加えて、

Special Events

卒業式



入学式

2005年度入学式は、桜の花もほころびかけた4月1日に同じく愛知県体育館で行い、1年次生2,301名、編入者54名、再入学者1名、大学院生189名の入学者を新たに迎え入れた。マルクス学長は、入学許可を与えた後、「多様な可能性の中から、一つの可能性を選ぶことこそが、まさに、私たちを人間たらしめる自由の本質であり、その一段階として、皆さんから南山大学を選んだことをしっかりと押さえて欲しい」と歓迎と期待の言葉を新入生に贈った。

2004年度卒業式を3月20日、愛知県体育館にて行い、2,021名（学部生：1,972名、大学院生：49名）の卒業生を社会へと送り出した。マルクス学長は式辞において、この1年間に多発した台風や地震など、自然災害の犠牲者に祈りを捧げると共に、自然の力を前にした時の人の無力さ、そこでの連帯の重要性を語り、社会に旅立つ卒業生に対して、常に他者と関わりながら自分自身であり続けることの大切さ、そして自分自身の存在を築いていくことの大切さを呼びかけた。

卒業式、入学式とも天候にも恵まれ、観客席を埋める多数の父母の方々のご臨席を賜ったことに感謝したい。
（総務課長 三谷 靖司）

Information

鈴木孝夫氏に名誉教授称号授与



南山大学は、今春退職の人文科学部鈴木孝夫教授に対し、永年の功績を称え名誉教授の称号を授与しました。授与式は4月4日、学長室にて行われた。鈴木孝夫氏は、1964年名古屋大学文学部文学科卒業。69年同大学大学院文学研究科博士課程単位取得満期退学、文学修士の学位取得。専攻分野は英米文学。69年南山大学文学部助手に任用、91年同学部教授に就任。「英米文学特殊研究」を担当。同学部英語学英文学科長を務めた。2000年学部改組に伴い、外国語学部に移籍。

退職 2005年3月31日付

小池英光 教授 人文学部
梅垣 弘 教授 人文学部
小谷凱宣 教授 人文学部
小林傳司 教授 人文学部
鈴木孝夫 教授 外国語学部
HAYNES, Louise 講師 総合政策学部
DEACON, Brad 講師 外国語学部

寄付者ご芳名

「南山大学教育研究支援」への協力に感謝いたします。
6月10日現在
(株)オークローンマーケティング 様
宗教法人真如苑 様
南山大学経営学会 様
(株)名古屋銀行 様
内藤健晴 様

153号より紙面をリニューアルしました。
より充実した内容でお届けしてまいります。
今後とも、ご高覧のほどよろしくお願いいたします。
発行 南山大学学長室
〒466-8673 名古屋市昭和区山里町18
TEL.(052)832-3113(直通)

NANZAN bulletin

南山大学広報誌
vol.153
2005.6.30



CONTENTS

特集 Feature Article 2006年4月 南山ビジネス・スクール開設

一愛・地図博パートナーシップ事業
人間の尊厳科目開講10周年記念
連続講演会

Nanzan Square
「パッヘ・スクエア」の壁画
Campus Topics
第46回 上南戦

私の研究
「政治変動の体系論的要因解析」

野口 博史 総合政策学部助教授
私のクラス
「コメにこだわる」

黒沢 浩 人文学部助教授
(表紙:第46回上南戦)

Feature Article

特集

2006年4月

南山ビジネス・スクール開設

中部地区初の本格的ビジネス・スクール

設置申請中

Q:「南山ビジネス・スクール」は、南山法科大学院に続く専門職大学院ですね。まず、ビジネス・スクールを設置する目的をお聞かせください。

A:1972年に設置された経営学研究科経営専攻は、研究者養成を主たる教育目的としてきました。本学におけるこれまでの博士の学位授与者39名のうち22名が本研究科修了者であり、研究者養成の側面において、本研究科は中部地区的教育・研究の拠点校として確固たる地位を築いてきました。また、「国際交流の南山」と言われるように、海外からの留学生も多数受け入れており、留学生の母国における有意な人材育成の一翼を担っています。しかしながら、わが国大学院の社会的使命として、從来の研究者養成と並んで、新たに高度専門職業人を養成する必要性が高まっていること、さらには、教育現場でこういった社会的ニーズや中部地区における本学への期待を感じることから、高度専門職業人養成を主たる目的とする大学院を設立することが国内外の社会・経済の要請に積極的に応えることになると想え、ビジネス・スクールの開設を計画しました。

Q:既存の経営学研究科をビジネス研究科に改称し、從来の経営学専攻に加え、ビジネス専攻「南山ビジネス・スクール」を併置するとのことですが、この2専攻の関係およびメリットについて教えてください。

A:経営学専攻は研究者養成型のカリキュラムを持ち、理論を重視し、修士論文を作成することに大きな意義を持っています。これに対し、ビジネス専攻は高度専門職業人の養成に重点を置き、理論よりもケーススタディとプロジェクト研究を中心としたカリキュラムによって、実務での問題解決能力を高めることを目的とします。専攻を同一研究科に併置することにより、次の4つの相乗効果を期待することができます。①既存の経営学専攻で培ってきた様々な教育資源（教育指導のノウハウ、経営合同研究室、経営研究センターなどの教育研究支援システム）を有効に利用することができる。②専攻の教員が競い合い、あるいは

